

『ソーシャルメディアで伝わる文章術』
キャンペーン限定立ち読みファイル

アマゾンでもe-honでも

この立ち読みファイルはUPされません。

このファイルは、実物とかなり近く、しかし少し違う箇所が多々あります。それをご了承の上で御覧ください。

扉以外、まだデザインされていない状態で、

実際の本よりも文章量が多く、細かい内容が含まれています。

それというのも、文章量の調整で割愛している箇所があり、

実物はさらにエッセンスが凝縮され、デザインもされているので、

読みやすくなっています。実際に購入されたらその違いもお楽しみください。

第1章

文章力が
すぐにアップする
9つのヒント



1-4 混乱を避け、「分かる化」しよう

◆「一文一義で短くすっきり」と。

分かりにくい文章には次のような特徴があります。

●伝えたいことが整理されておらず、意味が分からない／思いつくままにだらだらと文字を綴っている／主語と述語が離れ過ぎている／読点「、」がやたらとたくさんある

【ビフォー】

朝起きたら、ちょっと頭痛がするので、もう少し休もうと思っていたら、ついうつとと眠り込んでしまいました。目が覚めたらもう子供たちを起こす時間なのであわてて飛び起きて、子供たちを起こし、お弁当を急いで詰めて、子供たちを送り出しました。

話し言葉では平気でこれくらいの長さの文章をしゃべっていることがよくあります。しかし、状況や表情があるので、伝わるのです。これが、文字だけだと分かりづらいですね。なるべく「一文一義」（一つの文に一つの意味）で、複数の文に区切ってみましょう。

【アフター】

朝起きたら、ちょっと頭痛がしました。「もう少し休もう」。そう思っていたら、ついうつとと眠り込んでしまったのです。目が覚めたら、もう子供たちを起こす時間！あわてて飛び起きました。そして、子供たちを起こした後、お弁当を急いで詰めました。無事に、子供たちを送り出しました。

【ポイント】

長過ぎる文は、複数の文に分ける。文章の長さにも変化を付けて、工夫する。分ける際にも、体言止めにしたたり、文末を変えたりして、単調にならないようにする。必要であれば、感嘆符をつけて、スピード感を出してもよい。

◆「1記事1趣旨」で読者の負担を減らす

ソーシャルメディアの文章は、小説や手紙とは違います。小説では、長い物語のなかで、起伏をつけ、いくつもの要素を絡ませながら書きます。時に伏線も張り、わざと複雑な部分をつくることがあります。考え込ませるような表現も、それはそれで魅力的なときがあります。また、手紙では、長らく近況を知らせていない友達に対して、あれもこれもと伝

えたいことがいっぱいあるものです

しかし、ソーシャルメディアは、基本的に「その日その時見たこと、感じたこと、伝えたいこと」をつづるメディア。パソコンやスマートフォンなどで閲覧します。パッと見て、意味が伝わりにくい場合や、例え伝わったとしてもコメントしづらい場合は、のまま他へ移ってしまいます。パッと見て分かるようにするには「一記事(投稿)一意」がおすすめです。

例えば、Facebookで次のような記事を友達が書いていたら、あなたはこういう風にコメントしますか。

【ビフォー】

仕事をしていたら、午前中、自宅から電話。義母が足を滑らせて階段から落ちたとの連絡があり、午後は、息子から資格試験に合格したとの知らせ。自分のことよりうれしい！

前半は「わあ、大変だね。大丈夫？」とコメントしたくなるような内容です。ひるがえって後半は「良かったね、がんばって」と書きたくなります。どっちについて書けばいいでしょうか。

「午前は大変だったけど、午後は良かったね」というのも変な話です。解決策としては、午前と午後の2つに分けて書くことです。

【アフター】

(午前の投稿) 自宅から電話。義母が足を滑らせて階段から落ちたとの連絡。大丈夫かなあ。心配なので、昼休みに一度帰ってみます。

(午後の投稿) 息子から連絡があり、資格試験に合格したとのこと。自分のことよりうれしい！がんばっていたのを知っているので、本当に良かったです。

これだと読者もコメントをするのに悩まずにすみます。ソーシャルメディアでは、むやみやたらと読み手を混乱させないのが原則です

【ポイント】

無駄を捨てて「一文一義」を心がける。Facebookやブログ、Twitterなどは、一記事一テーマが基本。

第2章

ソーシャルメディア
で気をつけたい
6つのポイント



2-1-2 文脈は人脈。愚痴より「ほめ」を

◆愚痴の文脈は人を遠ざける

「よし、Facebookで『いいね！』をいっぱい集めて、友達をいっぱいつくって、いい人脈につないでいこう」。こういう人は、いっぱい「いいね！」がほしいからと、つい万人受けする情報を投稿してしまいがちです。

しかし、万人受けする情報には、独自性がありません。結果、焦点がぼやけた記事になり、本当につながりたい人がやってきてはくれません。

人脈は、文脈。あなたの口頃からの思いや、思考は、文字になり、言葉になります。言葉のつながりとなった文脈は、同じような言葉が流れる支流を選び、注ぎ込み、同じ文脈を見ている人のところに届くのです。

ソーシャルメディアという場で、そうしたいいくつもの文脈が複雑に集まり、絡み合っている様子を想像してみてください。そんななかで、望む出会いを引き寄せたいとき——出会いたい、そのたった一人のために書いてみましょう。

◆愚痴の文脈、ほめの文脈

「これは、私のために流れてきた水だ」と手にすくいとってももらえるように書いてみましょう。「いいねー」と押ししてくれるかもしれません。「ねえこっちにおいでよ」と友達を誘ってくれるかもしれません。結果としていい人脈につながることは言うまでもありません。ここで、ひとつだけ気をつけたいことがあります。それは、ソーシャルメディアというパブリックな場では、過ぎた愚痴は止しましょう、ということ。公開範囲を限ればよいという考えもありますが、人の口まではシステム管理できません。

二つの川があります。こちらは、愚痴の文脈。片方は、ほめの文脈。あなたならどちらがいいですか。多くの人が、後者を選ぶでしょう人はネガティブで不快な「愚痴の文脈(場)」より、ポジティブ・快適な「ほめの文脈(場)」に身を置きたいと考えるものです。

もちろん、全く愚痴を言わない人など皆無です。お互い様なところもあります。多少の愚痴なら「大変だね」「いい方法があればいいね」と聞いてくれる人もいるかもしれません。全てを自分のなかに閉じ込めずに吐き出してみるのも、爆発するよりはマシなのだと思います。しかし、**ソーシャルメディアは、感情のはけ口ではなく、あくまで公的な場。**どうしても書きたいなら、ごくごく身近な友達にメッセージなどで聞いてもらいましょう。

◆「ほめ」もタイミングと内容を間違えば逆効果

ただし、いくら「ほめの文脈」が良いからと「よし、では今度からほめてほめて、ほめまくってやるぞ」「ほめる」コメントをあちこちで書きまくってみるわ」とは思わないでください。「そんなにたくさんの人に気に入られてどうするの」「○○さんって、八方美人ね」とかえって懐疑心を持たれるのがオチです。ふと目について、本当に「いいな、素敵だな、すごいな」と思ったときに、自然にほめればよいのです。

さらに、まだ会ったことがない人に対しても、「ほめ」は効果を発揮します。Facebookではフィード購読、Twitterではフォロワーというつながり方があります。日頃から名前を知っていて、そのうちつながりたいと思う人に対しては、友達になっていなくても、その人の記事やつぶやきを読んでみるといいでしょう。

間違いたくないのが、タイミングとほめる中身です。

もし、Facebookで、まだ友達になっていない人から「写真がすごく素敵ですわ」と言われたら、どうでしょうか。特に外見についてのほめ言葉は、うれしい気持ちよりも、少し警戒心を抱かせることがあります。

一方、考え方や意見をほめられた場合は、まだ会ったことがない人からでも気になりません。むしろ「会ったことがない人なのに、私の考え方に共感してくれた」と認められたような気持ちになるでしょう。タイミングと内容で、与える印象は大きく変わるのです。

◆安直なほめ言葉を繰り返さない方法

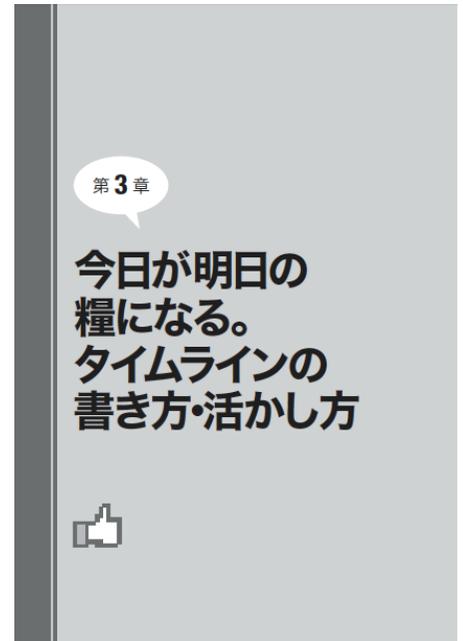
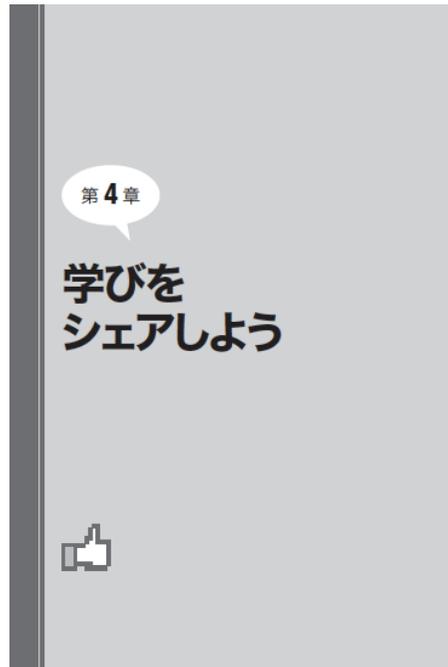
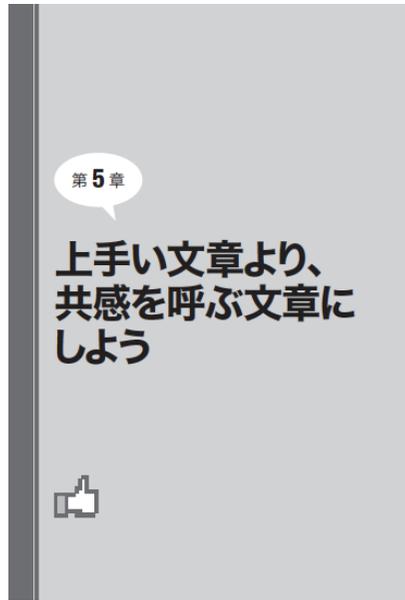
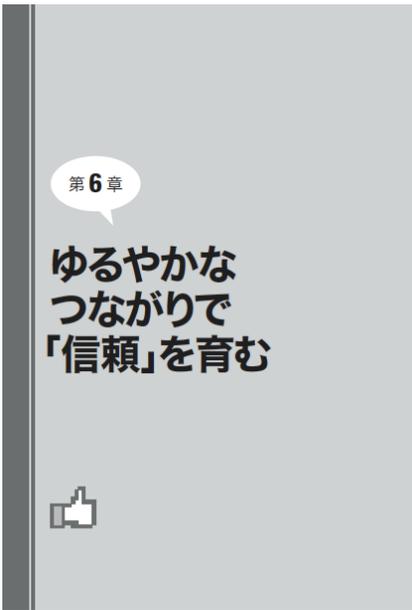
「素敵です」「すごいです」「尊敬します」と、いつも同じ言葉を連発していると、ソーシャルメディアでは、それがガラス張りで見えてしまいます。なかには、ブログのリンクを張っているのに、それを読まずに機械的にほめているものもあります。どこが素敵なのか、どこがすごいのか、どの点を尊敬するのかを、ていねいに書くとか好意を持たれます。

「いつも前向きで素敵です」「そこまですぐ自己管理できるとはすごいです」「柔らかい感じなのに、一本筋が通っているところを尊敬しています」。そんなコメントを読んで、悪い気はしません。とはいえ、毎回細かく書くわけにもいかない……そんなときは、同じほめ言葉が続かないようにしましょう。

【ほめ言葉のバリエーション】

●外見をほめる／「その髪型、いいね」「かっこいい」「おしゃれですね」「笑顔に釘付けです」「すてく、似合います」「笑顔がいいですね」

●行動や人柄をほめる／「さすがです」「なかなか真似できません」「行動的な人は尊敬します」「気が利く人は本当に素敵です」「その誠実さ、きっと伝わるね」。



第7章

独自の視点で 価値を高めよう



7-4 進路を照らすフィードバック

◆「役立つ情報を発信しなければ」がブレイキになる

「伝えたいことがあれば、書きなさい。あなたの知恵を、もっと人に分けるために書きなさい。そんな風に周囲の人に言われるのですが、毎日書けるかどうか自信がないのです」
もしかしたら、そんな風にあなたは思っていないませんか。

「伝えたいことがあるから書く」「役に立つ情報を持っているから書く」。それは、文章を書くうえでの強い動機です。

しかし一方で、不安につながることもあります。

「これが果たして受け入れられるだろうか」「そんなこと誰でも知っているよと言われたらどうしようか」「大して役に立たないと思われてしまったら」……そういう風に考え始めると、動機ではなく、ブレイキとして作用してしまうのです。

◆知りたいことがあるなら、書く

特に「誰もが見られる、読まれる」ソーシャルメディアでは、余計に「役に立つことを書かなければ、意味が無い」と思う人もいるでしょう。単純に、日記の延長では駄目だと思いきや、思ってしまうからです。

そういう思い込みがある人は「知りたいことがあるから書く」と考えてはどうでしょう。「伝えねば、役に立たなければ」と「ねば、なければ」は、書きたい気持ちにブレーキをかけます。しかし「知りたいことがあるなら」「知りたいことがあるから」。そんな「知りたい」という気持ちも、文書を書くうえでの大切なきっかけになるのです。

振り返れば、多くの人にとってこれまでの文章は「知りたいため」に書くものではありませんでした。何かの案件を成立させるため、気持ちを伝えたいため……目的があり、単方向の発信だったからです。ウェブ2.0時代で自由な情報発信の時代が訪れた時でさえ、そうでした。何か役に立つ情報や、専門的な知恵を持っている専門家だけが発信するものだと考えられていた節があります。

◆「見られる、読まれる+返される」に価値がある

そこで、ソーシャルメディアの時代です。今では「知りたいために」書いてもいいのです。むずかしいことを考えずに、書いてみてもいいのです。そうすれば、「知りたいこと」がやがて返ってくるのです。なぜなら、ソーシャルメディアは「見られる、読まれる」に加えて「返される」メディアだからです。

自分が書いたことに対して、誰かが何かを返してくれる。その「返されるフィードバック」に価値があります。他愛ないことでもいいのです。「あなたのことを気にかけている」という気持ち、コメントをする行為のエンジンです。

そして、書いた人にとっては、そのフィードバックがうれしいものです。時には、親記事のもとでコメントが盛り上がり、ちょっとした井戸端会議のようになることもあります。大事なことがそこで見つかる場合があります。特に「学びがありました」「気づきがありました」というだけでなく、自分の発した情報がそんな風に受け止められるのだと分かるような掘り下げた内容には、心を留めておくようにします。

◆フィードバックのなかで自分の軸が見つかる

さりげなく書き始めたブログや、Facebookでも、情報を蓄積していくとだんだん固定の読者さんがついていきしてくれることがあります。私のブログ『ほどよい敬語の使い方』も、もともとは自分の違和感を解決したくて、書き始めたものでした。

このブログで読者登録の際に受け取ることがあるメッセージでは「初見でどのように受け止められているか」を客観的に知ることができます。「明らかにしっかり読んでくれた上での感想」には、今後の重要なヒントが見つかることも多いのです。

「普段から違和感があると思っていた言葉があるのですが、その理由が明解に説明できずにいました。ブログを読んで、スッキリ解決しました」

「日頃から、○○の点を改善したいと思っていたのですが、ちょうど本日の記事に求めた答えがズバリ書かれていて、感銘を受けました」

敬語ブログの愛読者には、一般的な敬語の教則本のような書に書かれている「正しいか、正しくないか」だけでなく、「違和感があるか、ないか」「感じがいいか、良くないか」という読み取り方をしている人がずいぶん多いと気づかされました。それは「暮らしや仕事のなかで実感した言葉のやりとり」のなかで、私の仕事である「言葉によるコミュニケーション」をより良く発揮できるものだと分かりました。

「○○が解決しました」「普段から○○が気になっているのですが」などの「コメントは、

読者が〇〇を求めて訪問していることを示唆しています。自分でも気づいていない強みを発見できることがあるので、注意してみてください。

これが「知りたいことがあれば書こう」とお伝えした大きな理由です。

読者のフィードバックのなかに見つかる自分の強みや方向性、進むべき道。それは、多くの場合、発信者自身が最も知りたかった情報です。「そうか、これを発信すれば役に立つのか」と分かります。フィードバックこそは、進路を照らす光です。

前田めぐる



3 / 6・7 は

e-honでご購入キャンペーンを行います。

<http://maedameguru.com>

フェイスブックページでもお待ちしています。

<https://www.facebook.com/megumaga>